

「10年後の小牧市における高齢者の生活イメージ」委員意見まとめ

分野	生活イメージ	今後
医療・介護	<ul style="list-style-type: none"> 病気になっても自宅で医療を受けられる。 病気や怪我の際、自分もしくは誰かのサポートで医療機関へ行き、十分な医療を受けることができる。 介護が必要になった際も、家族もしくは誰かのサポートやサービスを受けながら自宅で生活を続けることができる。 介護等の理由で自宅での生活が難しくなった際には、<u>地域の中で</u>サービスが整っている施設を利用することができる。 自宅で最期を迎えることができる。 健康な生活を少しでも長く続けられる。 	第2・3回で課題・ギャップ等を検討
住まい・住環境	<ul style="list-style-type: none"> 改修等をしながらも、<u>家族とともに</u>自宅に住み続けられる。 自宅で生活することが困難になった際には、<u>住み慣れた地域の中で</u>サービスや施設環境が整っている所に住み替えができる。 	第3回で課題・ギャップ等を検討
食生活	<ul style="list-style-type: none"> 食事の調達と用意を自分で行うことができる。 自分で食事の調達と用意ができない場合は、誰かが栄養バランスのとれた食事を用意してくれる。 好きなものを美味しく食べることができる。 誰かと一緒に楽しみながら食事を摂ることができる。 	
移動・交通	<ul style="list-style-type: none"> 自分が行きたいところへ、好きなきに、安全に自分で行くことができる。 自分で移動ができない場合には、自分以外の誰かが目的地へ連れて行ってくれる。 	
生きがい・就労/ライフデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 働きたい人が無理なく働いている。 自分の趣味の活動を楽しんでいる。 自分の知識や経験を活かして<u>家庭や地域で</u>役割を担い、誰かの役に立てる。 誰もが自分なりの高齢期の生活を描けている。 家族・近隣とのコミュニケーションが十分に取れている。 	第4回で課題・ギャップ等を検討
支え合い	<ul style="list-style-type: none"> 地域にいる身近な人に、買い物やごみ出し等の日常の作業をサポートして貰える。 自分が誰かを支えられる時は、見守りや食事・移動等のサポートをすることができる。 	
経済面	<ul style="list-style-type: none"> 生活を維持することのできる蓄え・収入がある。 	

【凡例】 黒文字・・・たたき台に掲載しており、委員意見で言及された箇所
 黒文字+下線部・・・たたき台にはなく、委員意見より追記した箇所
 灰色文字+斜体・・・たたき台に掲載していたが、委員意見では言及がなかった箇所（今後削除）

